

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和4(2022)年
8月号
通巻624号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和4年8月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷製本
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



ツリガネニンジン

井手泉さん遺作写真(文・7頁)

昭和49(1974)年9月1日 東光大祭法話より

みんなが幸せになるための宗教

法主 矢追日聖 (満62歳)

連帯感を持つこと

今日の天気は、あまりいいとは言われませんが、皆さん方も参り頂きまして嬉しく思います。天気予報も最近は大リーグで捉えていますので、非常に的確な報道がされています。今度の十六号台風は大型ではあるし、どうも方角からいくと近畿地区へまともに出て来るんじゃないかというような予報も四、五日前からございました。

今日でも土砂降りであれば、恐らくこの人数の半分には減っていると思うんです。まあ人間というのは得手勝手なものですから、天気が良ければ遊びに行くけれども、雨が降れば家にいて何かしようとかいうのは、人間心なんです。

今年の旧暦七月十五日は、新暦では九月一日であるということは前から分かっています。ちょうどその九月一日に、台風が近畿地区へ出て来るというような予報がありましたので、恐らく皆さん方も大倭のお祭りだけでも、台風がやって来たら困るな、他所に行ってくれたらええのにと思っておったと違いますが。

でも私は来てもし来んでもよしと思っただけです。一年の行事として皆さんに対して礼拝出来たらもうそれでいいんで、暴風雨ならば弥栄踊りを止めさせすりゃいいんやし、もうそこは神さん任せ、天任せでどうなっても結構やというつもりでした。

ところが昨日は一片の雲なしでお月

さんが照っていました。台風は来るんかいなというぐらいの美しい空でした。台風はどっち向いたか知りませんが、今日のお祭りには大した影響がない。こうして皆さんも元気でおられます。けれども、もしあの台風が近畿地区へ来た場合、土砂崩れで何人かの怪我人や死人が出てはいます。自分の住む所は被害がなかったんでよかったです。自分の住む所は被害がなかったんでよかったです。日本人というのは案外そんなこと口に出すんですけれども、やっぱり社会というものは連帯感を持ってほしい。自分らの同じ社会の中にそんな不幸な人がおれば、自分自身も不幸であるというように思っしてほしい。

たとえば手の指先にちよつと棘が刺さっても、体全体に響きますよ。それと一緒に、世間の人が幸せにいくことによって自分の幸せを感じるというような連帯感を持ってもらうことが信仰の根源やと思うんです。自分や自分の家族だけが幸せになるという信仰だとしたら、それはエゴの塊なんです。こんな信仰が発達すればするほど社会は個人々人をみんな切り離していきまますよ。

信仰は自分で自分を修めること

信仰によって自分の信念をはっきり掴んでいくというのが、信仰の態度やと私は思うんですよ。宗教の世界で何十年もおつて、その思いに添わない場合が多いんですね。けれども、やがて今私が言うていることを理解する宗教人がぼちぼち出てくるはずですよ。

言い換えると、信仰というのは自分で自分を修めるといふことなんです。自分で修めるんですよ、他人任せではあきません。自分の心を、神さんの道なり仏さんの道で修行するんです。ところが世間の人を見てみると、自分のことを厳しく見て自

己反省している人が少ない。神さんに手を合わせるという心の中を見たら、これも頼むあれも頼むと、そればかりやと思うんです。

拜む時には前に神さんがあつたらおかしいんですよ。拜むのは自分の心と宇宙の心でなければいけません。それを接近させ一つになるところに、手を合わせて拜む値打ちがあるんですよ。

自分の前にいる神さんに手を合わせて拜むのは駄目なんです。それはね、神さんじゃないんです。前に出て来るようなものは固有霊です。狐も出て来りや狸も出て来ますよ。あるいは死んだ人間の霊も出て来ます。それは自分たち生きている人間と同等の、肉体のない霊魂だけの人間なんです。それに対して拜んだり頼んだりしたら向こうは逃げますよ。

ここにも一つの型として鏡を置いているんですが、御本尊は向こうやと思っけて手を合わせて一生懸命拜んでも、目を開いて見たら自分の姿が映っているんです。これが日本古来の信仰のあり方なんですよ。

ところが仏教が入って来る。仏教は哲学ですからね。鍛え上げた哲学が日本の坊さんの頭に入つたがために、日本人の心が持っていた古代の信仰から抜け出してしまつて、理屈の宗教に変化しているんです。

哲学は結構なんですけれども、理屈一本では世の中はいけないんですよ。あんたらの家庭を見てもそうですよ。理屈ばかり言うとなら喧嘩ばかりですよ。お互いにもうちよつと角のない大らかさがなければ円満にいかないと思うんです。

いずれ死ぬといつ現実共通

死ぬことは天の定めやから、どんな医者に掛か

ろうとどんな神さん拜もうと、一時的に生きたくしても、死ぬ時にはみんな死にますねん。

平均寿命より十年長生きする人も、あるいは三十年長生きする人もあるけれども、その時が来たら全部死んでしまう。その根源を知ることが宗教の世界です。

神さんは男と女を作り、そこから子どもを拵えて、その子どもが大人になってやがて年寄りになって死ぬ。そりやあ死ぬ条件はその人によって違う、色々ありますよ。病気で死ぬ人もありや、あるいは色んな精神苦で死ぬ人もある。首吊って死ぬ人もあれば交通事故で死ぬ人もある。しかし、やがて必ず死ぬという現実全部共通のもので、

お互いに仲悪う喧嘩しながら暮らしていても、仲良く愉快に暮らしていても、死ぬ時には死にます。それはもうみんな決定的だから、それを疑うことは出来ません。

腹を立てる心を先に直す

人間の心の働き、気の働きがこの肉体にどれだけ深い関係があるのかということとは、皆さんも日々経験していることやと思うんですよ。無病息災でとか健康でとか、神さんに手を合わせてお願いする心があるんだしたら、腹立てたりするようなその心を先に直しなさいと私は言いたくなるんですよ。

やっぱり神さんを拜む時、幸せになるようにとか健康であるようにと願っていると。それを拜む心があるんやしたら、なぜもつと自分の心を鎮めるような人間にならないのかと私は言いたいです。自分の心が安定するような物の考え方をしたらいいのです。そういう人間になっていくの

が信仰の道であり宗教の心なんです。

腹を立てる人はみんな寿命が短いですよ。いくら神さんに拜んでも、どんな立派な医者にかかっても駄目です。身体のエネルギーの根源というのは気から来るんやからね。だから腹を立てる人は一番先に胃袋が悪くなっていきます。反対に喜ぶ心を持った時に、自分の肉体はどうなるかをよく考えてほしいと思う。腹の立つような時でも、腹の立たないように自分を段々改造する、そういうのが本当の信仰なんです。それが出来たら無病息災で長生き出来ますよ。

ところが大阪や東京では、水を見てもヘドロがあるわ、空気にはスモッグがあるわ、そういうような状況の中に人間が置かれた場合、どれだけ腹の立たん人間になっても段々と侵されますよ。私は修養していますと言うたかて病気になるってしまいます。

水や空気が濁ってきたらやっぱり困るんやと、肉体にも影響してくるんやということが分かれば、公害のないような方法にしようやないかと、社会の者が共通した全体感を持たないといけない。自分一人だけの健康、自分一人だけの幸せというのではなく、みんなが健康で幸せになるような条件にならなきゃいけない。社会福祉というのはそれなんです。

大倭に信者は要らない

先祖さんは血の繋がっている者と常に関連があります。今日は大倭の東光大祭やから、大倭の方から関係している先祖さんを正式に招待していることになります。たとえば、他所の国に行く時でも、相手の国から招請状が来れば向こうへ行けますわね。大倭には大倭の一つの霊界の団体があり

ますねん。だから今日のお祭りは、大倭へ来ているあなた方と関係する先祖さんが、こっちへ来て遊べるという日なんです。

今日一日一緒に遊べるんやから、先祖さんはみんな喜ばはります。その喜んだ心は血の繋がっている子孫の方へ移っていきます。そうするとまたあなたたちに喜びが出て来る。これを回向と言います。

そのように死んだ世界の人と、生きている世界の人たちが常に交流して仲良くなるなければ、個人の家庭はうまくいかない。両方の世界がお互いに仲良くなってみんなの幸せを祈り合うという、それが信仰の根本やと思うんです。

私は大倭教信者いうものは要りません。信者ということとは宗教団体と密接な関係のある人を称して言います。大倭の場合でも文化庁から信者統計で何人やと言うてきます。昭和二十一年に宗教法人として設立していますからね。言うてくるけれども、でたらめの数字を書いときます。私はそんな縄張り争いみたいなことせんなんの気が食わんのです。

この人が私の信者ですと考えること自体、宗教の本質に逆らいます。私の気持ちからすると、信者であろうとなかろうとそんなものは関係ない。結論は、大倭へ出て来てみんな幸せになつたらよろしいんです。

みんなが幸せになるために出来ているのが宗教の根本なんだから、天理教や大本や創価学会……、どこでもよろしい。これは信仰の窓口です。みんなが幸せになることが信仰の世界で考えるべき問題であって、何々教や何々宗やというのは一種のクラブみたいなもんです。

それで私はここへ来るあんたたちを信者と思つたことありません。たまたま人間的に親しく付き

合いさせてもらっているから、こうして今日はお祭りですよという案内は出すけれども、これは人間関係で親しくしていくためのものであって、言わせてもらえれば信者だからじゃないです。ここへ出て来る時には、自分の親や親類の家に来るような気持ちで来てほしい。

心は先祖と一つに

今日は直会なほらひの後に、弥栄踊りという行事もごいます。世間という盆踊りですね。

仏教では、死んだ先祖さんはお盆に自分の家に帰って来る。帰って来て自分の仏壇に三日間いると説明するけれども、私から言うところやない。

自分の血液や肉体の細胞の中に、あなたたちの何代も前からの先祖さんの物質が、常に通っているんですよ。それを忘れたらあきません。

火葬場で焼いた骨は死んだ人が持っていた骨だけれども、その人の生きていた時の血液がその子どもや孫に流れているということです。それを切り離したら駄目なんです。自分の中で先祖さんと一つになってほしいということなんです。

この弥栄踊り、これは末広がりにお互いに榮えていくという意味です。字では弥栄やえいと書きますけれども、これを昔から「やさか」と言う。「い」というのは、話しをする時に音が出にくいんですよ。だから「やさか」と聞こえるんです。

それを端的に表わしているのは、祇園祭で有名な京都の八坂神社です。その八坂神社の、昔の古い名前では、字は全部「いやさか」神社と書いているんです。けれども、やっぱり「い」を略して「やさか」と読むんです。うちの弥栄踊りと漢字では書いていますけれども、「やさかおどり」と言うのが本当なんです。

現実の子孫の人たちと肉体の持たない先祖さんが共に、ここでみんな愉快に遊ぶ。そうすると、その家が栄えていくようになる。先祖さんと子孫が一つになってほしいというような意味で今日の直会で弥栄踊りがありますので、残って一緒に遊

令和4年1月9日 大倭会主催祝会より

宗教的に向上をはかっていくような場に(3)

拜殿にて 午後2〜5時

法主さんが亡くなった後

浅井克明 法主さんが、「自分の死んだ後は厳しうなるで」とおっしゃっていたみたいなのですが、厳しくなりましたか。どういところが厳しくなったのか。

杉本順一 ボクは法主さんから逃げられへん。もし法主さんが生きてはって離れたとこに居たら、悪口言うたとしても聞こえへん。それで済むけど、霊界はそれが許されへん。こつちがクソしてるよくな時でも、「しょうもないこと考えるな」とズバリ言われるしな。怖いとかそんなんちがうけど、四六時中そんなんや。

他人事みたいに聞いてはるけど、皆一緒やと思うで。

林修三 ああ、分からねんだけで……。(笑)

杉本 法主さんは全部、平等やからね。(笑)
奥津城にちゃんと言ってますやんか。「現身はよし朽つるとも永久に結ぶ心のかわるものかは」と、永久に皆と一緒やでと言ってる。

お墓ができて最初の頃、「おはようございます」と、とにかく形は手を合わせて拝んでたんやな。1カ月くらい経った頃かな、「たまには遊んでいけよ」と言われたわ。そんなこと言われるなんて

んでもらったら結構だと思えます。

今日は幸いに台風のお陰で涼しいし、時々はお湿りもあると思えますけれども、まあゆっくりと遊んで下さい。じゃあ今日の話はこれで終わりです。
文責・編集部

夢にも思わへんかった。まあ仕事もあるし、つい余裕のないところを見てはったのかな。

浅井 他の方はどうでしょうか。

杉本 厳しくすると言っても罰を与えるということではないんやな。

林 法主さんが亡くなってから、今までそんなことなかったのに何かを感じるようになって、杉本さんに相談に来る人が多くなったみたいなんです。杉本さんは各自がダイレクトに法主さんにつながるようにと言ってるみたいですけど……。

浅井 ほう、そうなんですか。

岸野春子 ポンちゃんは、ズーッと否定から入るみたいな修行をしてはったように思うのね。法主さんに会った最初の頃にまず「根拠もないのに信じたらあかん」と言われたそうで。

それが亡くなって間もない頃に拜殿で座談会をしている時、ポンちゃんが何についてだったか忘れたけど、否定から入るような物言いをした瞬間、マイクにガガーツとすごい雑音が入ったのを覚えているわ。(※『おおよまと』平成9年2〜6月号連載第5回「私にとつての日聖師を語る」参照)
今頃は、ポンちゃんの口から法主さんがこう言うてはるとか聞くようになったけど、それまではそんなことなかったやろ。

杉本 感じることは昔からあったんやけど、それ

まで「信じるな」と言うてたのが、急に頭から法主さんだけやなしに稲田姫さんも「自分を信じよ」みたいになってきたんやな。「何を今さら、いらんわい！」と抵抗を続けてたら、倒れた。ちょうど法主さんが亡くなって1年経った時に、頭の手術をすることになった。

1カ月ほど入院して思考力が止まってしまった。いろんなもの見せてくれるんや。例えば宗教的な形のある立派な建物を見せられた、と感じた瞬間に消えてしまい、「形のあるものに何があるか」というようなことを示された。そういう感じの教え方やった。もうしょうがない、素直になるしかない。自信がないならいいわけや。自分が正しいとか間違っていないと思わんと、ただ気持をそのまま言うておけばいいんやと、そういう修行やった。

岸野 入院してる間だけ、ピンチヒッターで『おおよまと』の編集を私が引き受けたわけ。けど何か忙しくなってる感じで返しそびれて、そのままになったのが、今まで続くとは……。

機械類が苦手なのに、パソコンを覚えたのが奇跡的やった。寮母時代に経験したよりもひどい腰痛になったけど、多少パソコンができれば、大倭印刷の仕組みの中に一つの歯車のようにはまってやりやすくなった。そこへまた岸田さんや林さんが編集部に加わってくれることになって、『おおよまと』の発行が延命していると思います。

浅井 紫陽花邑で暮らしてきた皆さんは、こんな時こう言われたとか体験の中で、法主さんの言葉を理解しておられるわけです。ボクは法主さんの亡くなった後で来ているから、生のやり取りや共有できる思い出もないし、話を聞くとか、『おおよまと』を読むとか言葉でしか知らない。

どんな宗教も開祖の残している言葉に解釈が入

つてくるから、どんな解釈がかけ離れて言い争うようになって結局だめになると、法主さん自身がおっしゃってるんです。確かにその通りだと思います。

大倭の場合、それはいいのか、その入り口にあるのかどうか、よく分かりませんが、まさにこの状況が厳しくなるということかなとボク個人はちよつと思ってるんです。

霊界とのダイレクトな付き合い

浅井 自己紹介の時に言った「みそぎ、禊会を考える」を読むと、言葉なんて上っ面で、霊動とか何とか、言葉を超えた部分から入らないと自己本霊に気が付かないんだというような話もあるんですね。それでもボクには言葉しか頼るものがない。そうだけれど、一面、何か感ずるものがあるから変に考えないでふらーっとこうして来させてもらっているわけですね。

岸野 その中に、浅井さんが納得しやすい言葉があるんじゃないですか。

浅井 そうですね、言語化できない感覚に光を当ててくれるところがあって、この人は本物の宗教家じゃないかと思っただけです。

山田照久 良い縁だろうが悪い縁だろうが、やっぱり何か縁があったということではないですか。だから今世でお会いしてなくても、はつきり自覚しなくても何となく感覚で分かるところがある。

浅井 それも解釈でしょ。自分の母親には超自然現象が日常的にあるんですが、それはそれとしてボクは理屈っぽい人間で、因縁論は体験できないことなので、なかなか納得したいものがある。けれども法主さんは、矢追日聖という人がこう言

っていたと、とりあえず覚えておくだけでいい。いつか分かる時がきたら思い出しにくれたらいいと繰り返しておっしゃっているんですね。

岸野 そのうち分かっちゃたらええという感じ。信じなくてもいいし、とにかく無理せんでええから楽なんですよ。

浅井 何で奈良にきたのか、それも縁はあるんだろうけど、こうかなあかなと考えている内に解釈の問題になっちゃって本質から離れていくような気もする。あえて思考停止にしてふわつとしていくわけです。

まあオカルトっぽい話はおもしろいと思うけど、自分の体験で分からないことはウソになるから、あまり話せないなという感じなんです。

山田 表層の意識と深層の意識がある。表層では分からないと思っても、深層では分かっている場合があるかもしれない。お釈迦さんでも何も言わずに、蓮の華をキュッとねじ曲げはったという話がある。それで、あつと分かった人もおれば、何じゃこれと分からない人もいた、と(※お経の言葉では「拈華微笑」。微妙な部分は、言葉とか文字で伝えられるかといったらきつと無理なんです。けど何回か生まれ変わってどこかで気が付くとかいう人もあるかもしれないし、遅いか早いか人によって違う。

まず理屈から入るのもいいのかもしれないですね。自分から一生懸命求めていくことが大事かなと思うんです。

林 一番大変になったのは教長さんと違いますか。

岸野 教長さんはぶれないですね。いつも「自分は霊界のことは分からない。ただ法主さんにお祭はお前がやらなければならんと言われたから」とおっしゃって徹底してはる。

霊的な問題と宗教との区別

岸野 さつき林さんが言うてたけど、法主さんが亡くなった後、周りで今までそんな気配の全然なかった人たちが霊的な体験をしているという噂が耳に入るようになったんです。ちよつと異様に熱っぽい雰囲気もあった。それはいつの間にか静まってたんですけど、何か記事がほしいという時、まあちよつと『おやまと』に書いてもらおうという話になりました。(※『おやまと』令和元年8月9月号「特集 顕幽不二あれこれ」人それぞれの「味の世界」参照)

皆、底深い思いがあったんかな、反応良く引き受けてくれた。読ませてもらって、まさに地下水の精神で何かしら大倭のために働いておられる皆さんの根元が分かった気がした。ポンちゃんから「法主さんが、『自分が教育する』と言っている」と聞いたことあるけど、そうやったんかなあ。もう日常茶飯事のようになっている印象です。大倭では、別に偉くなるわけでもないしね。ポンちゃんだつてポンちゃんのままや。子供だつてそう呼んでる。

杉本 親が気を使うんか、ポンちゃんおじちゃんと言わせることもある。(笑)

浅井 皆さんの話を聞いていると、亡くなられるまでは、法主さんが霊界との間に、緩衝材としていい塩梅に入ってくれてたわけですね。それが亡くなつたらダイレクトに霊界と付き合わなくてはいけない。訓練のできてない人もいるから、厳しくなるということだったのかな。

岸野 霊的な体験とか霊動でも、法主さんは「経験したら、その後は抜けなあかん」ともよく言われましたよね。でもいつまでも抜けない人も見受

ける、なんちゃって。分からねんくせに偏見かもしれませんが。(笑)

山田 ボクも子供の頃はよう見えたり聞こえたりしたんです。しかし親に言う怖がられるし、おかしいかと思われるし、見えんこと聞こえんことにしてきた。大倭に来てから話すようになったんです。中古の家を買ってリフォームした時に、風呂場に人が居てはるんで、あらーっと思っただすよ。(笑)

林 同じような人はけっこうおるみたいですね。精神病扱いされたりする場合もある。

岸野 見える人には見える人の悩みがあるということとは理解します。石田勝利さん(青森県弘前市)が、『とおやまと』の特集を読んで、仲間がいて嬉しかったと手紙をくれました。

浅井 母親の周辺にいたり友達関係にもあったりして、子供の頃から山田さんのような人が妙に身辺にいました。だからボク自身にはないんですが、不思議とも思わないで、何か「ある」という感覚は持っていました。

林 岸田さんとも奥さんや娘さんが感じやすい。

岸野 「一大事の因縁」(野草社刊)『ながそねの息吹』所収)のどこかに、矢追家の歴史を記録しておいたら、世間には似たような事情の家もあるだろうから、読んで助かるやろというようなことを書かれますね。正に、新皇教宮の中村家も大変だったんですね。(群馬県安中市、『とおやまと』令和3年4月号の「中村家の歴史——一大事の因縁」参照)

林 変な宗教につかまったりすることもある。

山田 確かに。ずーっと自分と同じような、けつたいな家がないかと探していたけど、言うたら変な人だと思われなかとセーブがかかってたか

ら、読ませてもらってほっとしました。

身内でも見える者でそうでない者が極端に分かれる。見えるのが良いことではない。見えたら、それが宗教かと思っただけな宗教に入っただけ、振り回されてしまうんです。ほんまに見たのか、騙されてるのか。

法主さんがおられたらガードされるから安心やけど、どこに行くか分からない。自分だけで対応するのは相当、難しい。理論武装も必要だと思えます。理屈っぽい方がガードしやすい。ノーガードでは危ないですよ。

岸野 法主さんが「大倭千一夜」で、「自分についている神様が分かるか」という女性に、「狸が見える」と答えると、「自分は天照大神の再誕である」と怒られたと書かれますよね。(※『とおやまと』平成25年1月号〜平成28年10月号全29回連載「徒然なるままに心霊のくさぐさを喋る夜ばなし」中の、平成25年8月号(其の七)参照。『大倭新聞』よりの再録)

林 法主さんに相談にきた人の様子を見ていたら、霊障害なら黙ってもう外しておいてやったという場合とか、お社を作って祀ってやれとかいう場合とかあるけど、それは宗教と違うと言われるんです。自分はそういう能力を持って生まれてるだけであって、医者と同じことなんだと。岸田 法主さんは盛んにそれを言われましたね。宗教とは次元の違う能力なんだと。

言葉で分かる人、ふわっと分かる人

浅井 法主さんが亡くなってから来なくなった人もあります。

林 そうですね、縁遠くなった人もありますね。ボクは生前に法主さんにお会いできたけど、亡く

なつてからの歳月の方が長い。自分の中に法主さんがおられて、ずーっと物語は続いているわけです。残されたものを読んだり、皆さんから話を聞いたことで学ぶことは多い。

岸野 法主さんが、自分の話があり響かないことを嘆いて、「まあ自分の役目だから同じ話を繰り返しているけれども、肉体がある間はあかんのかもしれん」と話してはったのが心に残ってる。

(※『とおやまと』平成2年3〜5月号の日本山妙法寺の僧、寺沢潤世上人との対談「日本のお役目について——そこから日本を考える——」参照)

浅井 法主さんが亡くなって断絶があるというものでもないですね。生きた法主さんに出会って本質にふれた人もあれば、こうした視会のような形で本質をになっている言葉がひっかかることもあるということですね。

林 お釈迦さんの場合でも、ずっと長く一緒に居たから悟れるものではないという話も出てくるし……。

山田 言葉も深すぎて、本当に分かったらいいんですけど、生きている間に分かるかどうか。

杉本 法主さんの生きてはった時な、「言葉を聞いて分かるタイプと、言葉はふわーっと聞いているけど言葉直感的に受けとめるタイプと2種類あるな」と感想を言うてはったことがあるわ。どっちが良いとかじゃないよ。たくさん聞いたり読んだりしたら分かるというものでもないやな。

それと、去年の7月頃の話やけどな、お祭の法話は霊界人も聞いているって法主さんいつも言わはるやろ。それはどんなかなと考えながら、教務本庁2階の太郎坊・次郎坊さんにお参りしていたら、次郎坊さんの方から「法主の光を頂いてます」と言うてはったので、何か届いてるんやなと思っただ。(つづ)

文責・編集部

井手泉さんが遺した言葉

ドジョウはドジョウ

岸田 哲

今年の3月13日に帰幽された井手泉さんは、爬虫類や両生類の在野の優れた研究者でもあった。私はここ数十年あまり、自然観察のために方々の谷や森にわけ入って井手さんのお供をする幸運に恵まれた。特に奈良吉野の川上村の原生林へは、ある時期毎月のようにヘビやカエルの生態観察に通っていた。目的地へ向かう車の中や一休みする木陰の下で、井手さんの話しに耳を傾けるのが楽しみだった。井手さんは矢追日聖法主の教えと人格に深く帰依していて、それが彼の人生観、世界観の土台になっていたが、長い人生の苦業の中で会得された「井手節」とでも言える自然や人生についての独特の語り口も魅力的であった。

たまたま元気な頃の井手さんに頼まれて最晩年の成年後見の担当を引き受けた関係で、私が遺品を整理する中で、ご自身が書いたメモや資料が多数見つかった。彼は人前ではあまり多くを語らない方だったので、皆さんに資料の一部を紹介して、その人となりを偲んでいただくこうと思いついてこの稿を書くことにした。

吉野の川上村にある「森と水の源流館」の機関誌『ぼたり』でヘビについて紹介した文章に、野生の生き物に対する井手さんの真摯な姿勢がよく出ているので、まず引用してみよう。

《……ヘビという生き物は、多くの人に嫌われたり敬遠されたりしがちですが、(中略)大切なのは自然の中で実物のヘビに出会うことです。そこで一切の先入観や思い込みを捨て、ひたすら自分

の眼と五感のすべてをもって直接にヘビと向き合い、彼らの発信するメッセージを虚心坦懐に受容してみてください。そうすれば、様々な発見があり、その不思議さや素晴らしさ、美しさに我を忘れて驚嘆することと思います。ヘビ以外のあらゆる生き物や自然の様々な現象についても同じです。知識ではなく純粋な感性をもって出会い、驚嘆の喜びを体験しましょう。》

井手さんは感性とか感受性の大切さをいつも力説されていたが、彼がいつも持ち歩いていた小型のノートにも次のような記述がある。

《感受性こそが英知である。美しいものに感動する資質を失えば、愛情や親切や思いやりの心を失い鈍感になる。この、ものの美しさに感動する能力、ものの良さがわかる資質がある限り、人は生死をこえた祝福に遭える。》

井手さんと一緒に山を歩いていて、珍しい草花や昆虫に出会ったり、雲の変化に気付いたりした時に、彼が時間を忘れて呆然と立ちすくんだりすることをしばしば

目撃したのを思い出す。

だが同時に現実の世界のあり方にも厳しい目を向けている。

《毎朝のことながら起床するとき全身の快感と内心の平和と万物万霊への感謝の気持があふれ、極楽浄土にいる様な気持ちになる。が、その一方

では、世界中が争いと憎しみに満ちあふれ自然災害や疫病や貧困による悲惨な状況に多くの人があえいでいる現実がある。それは何とかしなくてはいけないと思うが、私の力ではほとんど何もできないのも現実。人類全体が総じて餓鬼道や修羅道や地獄道であえぎ、苦しみながら、そこから脱却出来ないでいる。》

井手さんはある時期から体力の衰えを感じはじめ、私にも「物がなかなか片付かない」とこぼしていた。その頃の記録にいかにも井手さんらしいこんな一文がある。

《朝5時45分に起床。朝日に礼拝。瞑想。身軽に自由に、楽しく、その日その日を生きる。物心両面のガラクタを処分すること。先ず「私」、「私のもの」という観念を捨てること。そうすれば、身のまわりのほとんどの物が即座に処分となり、ガラクタはどんどん消えてゆくだろう。処分に必要な手作業の時間はかかるが、我執の抵抗がなければ、どんどん片づいてゆくのは明らかである。》

残念ながら、この文を書いたあとは体力が急速に低下していったので、「どんどん片づいてゆく」のは無理だったのだが。

さまざまな課題や体力知力の衰えを自覚しつつ井手さんが最晩年に感じていたであろうと思われる心境を最後に紹介しておこう。

《「過去」への後悔がなく、「未来」への不安がなく、「現在」に満ち足りているから、天国や極楽などを想像したり、求めたりすることができない。今、ここに天国も極楽も浄土も地獄も、何もかもがある。》

《ドジョウはドジョウ、カエルはカエル。それぞれがそのまんま、それぞれの天性のままに生きていく。》



あじさい日誌

7月8日 安倍晋三元首相、大和西大寺駅前で参議院選挙の応援演説中に銃撃され死亡。

7月10日 参議院選挙投票日。半年ぶりに大倭会主催の祝会。天理の喜多村和人さんが久しぶり。藤本宏秋さんと彼に誘われ高垣武司さん(奈良県香芝市)が初参加。先月号あじさい日誌中、法主さんの言葉という「ハセガワハ ワタクシラスステ カエツテキヨツタツ」(私心を捨てての帰幽、見事な罪障消滅)を巡って話し合いました。

7月15日 大倭神宮月次祭。

7月23日 大倭大本宮月次祭。京都の大倉有宏さんや屋久島の手塚賢至・田津子夫妻らの顔も見えました。この日の法話は、昭和40年7月23日月次祭からで、『おおやまと』令和元年7月号に「自然の流れに沿って生きる」として掲載分です。

午後4時から大倭会館で大倭会役員会。大倭会通信参照。

7月25日 大倭会館の4サークル合同で会館の大掃除。

8月6日 広島原爆の日。午前8時15分、拝殿の太鼓が李章根さんによって打ち鳴らされました。

夜、大倭会館で邑倭の会。

大倭安宿苑では

7月27日 14時から西奈良中央

病院の松本理事長と新谷看護師により、新型コロナウイルス等感染症対策について、対面とズーム配信により研修会を行いました。

(菅原園)

7月25日 午後から通所利用者が、職員のサポートを得ながらミニ運動会を行いました。

(須加宮寮)

8月2日 放送利用で誕生月の方のお祝いを行いました。

(長曾根寮)

7月7日(デイ)(特養)七夕行事。短冊に願い事を書いて笹の葉に吊るしました。

(茂毛路園)

8月3日 8月生まれの5名の誕生会。豪華な昼食とケーキのおやつで皆様でお祝いました。(八重垣園)

コロナの影響で長らく中止していた理美容を再開しました。

原爆の日の太鼓は、反保障臣さんに伝えて頂いたように、「十三(とみ)」で13回打ちました。和の光と井手泉さんを思いながら。

でも生きてる人間が、自分が問題なんですよね。これがややこしい。万物が還元帰一し帰依するのが神ながらの大法、人間がいかに生き死にするかの掬い所が神ながらの教えだとすれば、それに照らしたされる今の

世の中も自分の姿を省みても愕然と膝から崩れ落ちそうになる。

夏井いつきさんは最新刊で「心の複雑骨折を繰り返しながら、自然治癒力を身につけていくのが、人生というもののなかもしれない」と書いていた。

そんな時、落語を聴いて心を休めます。今さらながら、桂吉朝さんや中島らもさん達と過ごした日々を思い出します。粹で洒落た遊びの間。間を魔にするのか真にするのか。なんて言っていると吉朝さんや、らもさんにえらい突っ込みを入れられるに違いない。

やわらぎの世界ってどんなだろうな。

(李章根)

令和4年度第2回大倭会役員会が去る7月23日に大倭会館で開催されました。出席者10名で、遠方で参加できない方々からのメッセージも含めて歓談しました。また、東光大祭準備や文化行事・文化講演会・文化行事冊子発行の進行状況についても検討し、コロナ禍の広がりの中で、どのような活動をしていくか話し合いました。

遠方からの便りの中には、奈良で起きた元首相の銃撃事件や宗教団体とのかかわりについてふれたものもありました。コロナ禍、戦争をめぐる対立と世界

は大きく揺れ動いています、その中でも心をしずめて歩んでいきたいものです。(岸田)

令和4年度第2回大倭会役員会



原爆の日の太鼓は、反保障臣さんに伝えて頂いたように、「十三(とみ)」で13回打ちました。和の光と井手泉さんを思いながら。

でも生きてる人間が、自分が問題なんですよね。これがややこしい。万物が還元帰一し帰依するのが神ながらの大法、人間がいかに生き死にするかの掬い所が神ながらの教えだとすれば、それに照らしたされる今の

世の中も自分の姿を省みても愕然と膝から崩れ落ちそうになる。

大倭会通信

令和4年度第2回大倭会役員会が去る7月23日に大倭会館で開催されました。出席者10名で、遠方で参加できない方々からのメッセージも含めて歓談しました。また、東光大祭準備や文化行事・文化講演会・文化行事冊子発行の進行状況についても検討し、コロナ禍の広がりの中で、どのような活動をしていくか話し合いました。

遠方からの便りの中には、奈良で起きた元首相の銃撃事件や宗教団体とのかかわりについてふれたものもありました。コロナ禍、戦争をめぐる対立と世界

は大きく揺れ動いています、その中でも心をしずめて歩んでいきたいものです。(岸田)

令和4年度第2回大倭会役員会

岸野さん、山脈の会でお話しいただいた『夢野久作と杉山三代研究会 民ヲ親ニス』第8号の会報を送って下さってありがとうございました。ぼくは若い頃から夢野久作の本は読んでいました。『ドグラ・マグラ』は何回も読みました。

今回読んで、深いところで杉山家と大倭はつながっているのだなあと感じました。また若き日の柴地さんがそのつなぎ役をしていたことも感じました。スケールの大きな方々のお仕事です、読みつつ地球のことに力を尽くします。

あんない

*月次祭(大倭神宮)
9月6日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催祝会
9月11日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

*月次祭(大倭神宮)
9月15日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大倭大本宮)
9月23日(祝) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

第347回大倭会文化行事
~佐渡での法主様の足跡を訪ねて~
3年ぶりに秋の旅行を復活の予定です。

時期 令和4年10月29日(土) ~ 31日(月) 2泊3日

宿泊 (29日) 新潟県上越市 鷲の浜温泉
ロイヤルホテル小林
(30日) 同 佐渡市 桃華園

費用 (奈良から) 6万2千円
(関東方面から) 4万8千円
※鷲の浜温泉のホテルで待合せ

申込み 9月15日まで(なるべく早くよろしく)

問合せ 教務本庁 0742-45-1192
溝口富士男 080-3101-1639
林 修三 080-2527-0840

※但し、コロナ禍の動静を見ながら必要な判断をしていきます。